



# 海獣葡萄鏡の世界 ②

平成30年 7月19日(木) → 9月11日(火)

## 海獣葡萄鏡

唐の時代を代表する銅鏡の一つで、「海獣」と「葡萄」を主紋様とします。

「海獣」とは、中国から見た外来の異獣を意味し、ライオンが元になった瑞獣(おめでたい動物)です。

「葡萄」は、当時の中国で珍重された豊かな実りを象徴する植物です。紀元前4世紀頃にギリシャで生まれた「葡萄唐草紋」とよばれる紋様として表されます。

西方を起源とする2つの図像がシルクロードを東へ伝わり、中国の人々が考えた楽園の図像の中に取り入れられ、国際色豊かな鏡背面のデザインとして成立しました。

### 2面の鏡を比べてみましょう

西アジアからの影響を受け、紋様が変化していく様子をご覧ください。

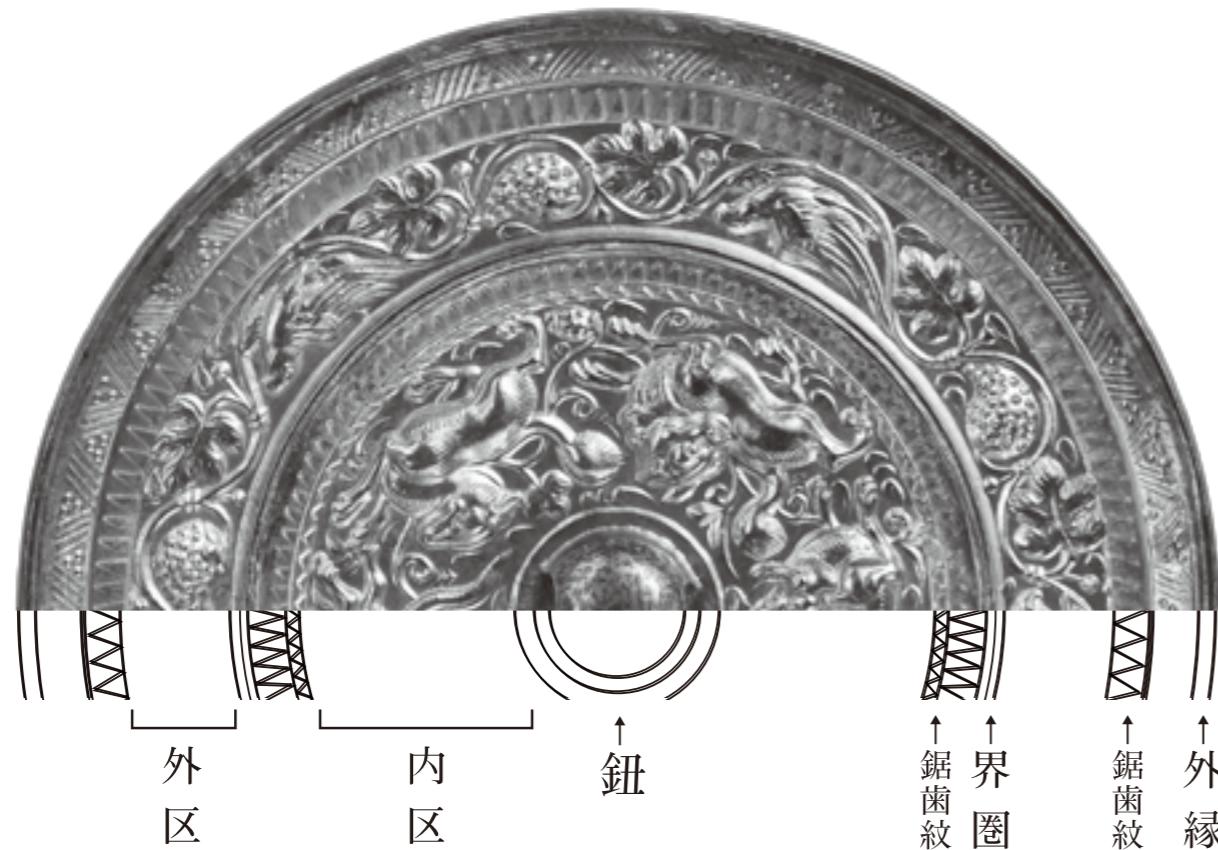


図録番号 199



図録番号 225

## 銅鏡（鏡背面）の部分名



- 鈕(ちゆう) = 鏡背面の中央にある孔の開いた突起。  
孔にあなにヒモを通すことで鏡を持ったり、鏡台に架けたりすることができる。
- 内区・外区 = 鏡背面が内外に2分割された鏡で、内側を内区、外側を外区と呼び、鏡の主紋様が配される。
- 界圈(かいけん) = 同心円状の壁のような部分。これを境界に内外区を区分される。
- 外縁(がいえん) = 鏡背面の外周部分。
- 鋸歯紋(きよしもん) = ノコギリ刃のように三角形が連続する紋様。

### 当館企画展のお知らせ

唐建国1400年

# 唐王朝の彩り

宮廷の栄華をうつす金銀銅

平成30年  
9月14日 金  
↓  
平成31年  
3月12日 火



主催 兵庫県立考古博物館加西分館  
後援 兵庫県 兵庫県教育委員会

## 初期の海獣葡萄鏡 伝統を受け継ぐ鏡

界圏や外縁の内側に巡る  
鋸歯紋(きよしもん)

半球状の鈕(ちゅう)

鈕の周囲を駆ける海獣

高い界圏が内外区を区分

図録 199 (径 14.1cm)

7世紀中頃に制作された海獣葡萄鏡は、「海獣」や「葡萄」など新しい図像紋様を取り入れながらも、漢の時代から見られる丸い鈕や鋸歯紋など伝統的な鏡の要素も受け継いでいます。たわわに実った葡萄はまだ少なく、内区では、海獣が鈕の周囲を駆け、外区では外縁に沿って鳥が飛んでいます。界圏を境に2つの世界が広がっています。

## 発達した海獣葡萄鏡 自由な表現の鏡

界圏を乗り越える  
葡萄唐草

見上げる姿の海獣

獣が伏せた形の鈕

思い思いの方向を向く海獣と鳥

図録 225 (径 17.2cm)

内外区に生い茂る葡萄唐草が低い界圏を覆い、その中に上から見た姿で表現された海獣や鳥は思い思いの方を向いています。もはや内外区に広がる世界の区別は曖昧になり鏡背面全体が1つの紋様になりつつあります。  
のびやかなデザインの海獣葡萄鏡は7世紀末～8世紀前半に制作されました。この時期は華やかな唐文化が開花する時期とも一致します。